（廿八日夕刊）
磐城新聞
休刊 大祭日 第三日曜
定價 壹枚二錢 壹ケ月五十錢 郵税十錢
廣告料（雜報欄行五十錢 場所指定二十錢増）
發行兼編輯印刷人 蓮沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

秋の夜に一考

戸田一二三

私達は生の路ばたで、なつかしくみ詰め會ふだらう……、あらゆる人生の苦悩と戰へながら、此處迄さがし求めて旅して來た私達はその廣漠の宇宙的寂寥の中に、はかなしく自分達の未來を理解するだらう……、人生が如何に寂しいものかを……愛する事が如何にも事であるかを……、そして慎ましい心情を持つて此のあまりにも廣莫たる宇宙一角に貧しいながらも、光に充ちた家を作り始めるだらう……、だから私は信じる、私は私の愛人を信じてゐる、あらゆる難解な哲學的体系も私達の家には必要ではない。それ處か私達の家を建るのに、私達はほんとうに獨創的な一點から發して行くであらう、それが偶然蒼空の尺度と一致しやうがしまいが、それは私達の知つた事ではない、私達はそれよりも聰明に且單純に私達の生活を知つてゐる愛し會ふ事を、そして、そして生きる事を私達の生活はまこと此一點から出發しなければならない事を私達は知つてゐる。

× ×

私達に自然を思慕する間である私達の魁の一致が此處にある事を私達は理解した、それ故私達の生活の窓は、明け前の地平へ、と自由・單純に切られるであらう、そして私達は詩を愛するだらう……、また音樂に親しむだらうとする事が私達の生活の本質であり、第一要素であるのは私は知つてゐるから……私達は決して幻影に溺れるやうな事はないであらう……なぜつて、自然への求情が私達の生活の意志である限り、私達は單純なナイーブな此第一原理の上に何時も自分達の分限を越えやうとは！

ないから、云ふまでもなく自然への、單純への、求めが私達の生活であり、是等の生活が如何にして裏切られるかを私達は知つてゐるから。

二人の人間が斯くまで一人になり行く事に私達は驚かない。

私の知つてゐる事は努力と運命との路に立つた影である。

そして幾日も私達は益々深く愛し會ふだらう、そして私達は決して物質生活についての注意を怠らないだらう。むしろ忘却してゐる

磐新顧問

（照合を歡迎す）

（問）米商人ですが本年九月からある家へ五日ごとに米一斗づゝ掛賣をなし十月二十日までまだ一厘も代金の支拂を受けて居らず、その家では前の借金で他の人から十月中旬過ぎ公正證書による動産の差押へを受け近日競賣さるゝことになりました、私の方への代金は差し押へらるゝ位だから支拂が出來ぬといふのですがどうしたら取れるでせう　（米屋）

（答）米代金は先取權がありますから競賣の終らぬうち配當加入の申し込を執達吏にするがよろしい競賣得金のうちから第一に支拂つてくれます、賣得金が米代金に達した場合は全部支拂つて呉れるのは勿論です

（問）私はある男と同棲中子供を生みましたが、その後その男か行衛不明になり、父親はそんな不都合な男の子供を戸籍に入れるのはならぬと言ひますので仕方なく友人に頼みその人の子供として戸籍に入れて貰ひましたが近頃になりその友人が色々な苦情を申し出すので父に懇願し私生兒として屆出やうと思ひますがどんな手續きが必要でせうか　（きく）

（答）それはあなたの本籍管轄の區裁判所へ戸籍訂正願ひをして其の許可を受けなさい、願書は區裁判所の近所の代書人に頼まれた方が便利です、但あなたの父が子供の入籍に同意を與へぬ場合にはあなたの子供に一家を創立せしむればよろしいのです。

明日の吉凶

新暦十月廿九日　舊暦九月四日

▲一白　一家心を纒めて專心業務を勵むが安全の日　▲二黒　追々と盛運に向はんとする端緒物事あせるな　▲三碧　虚榮を慎め目上の言葉に從へば大吉　▲四緑　鬱散じて物事順調に進む外より內がよし　▲五黄　位の高まりて實收は意外に少き日旅行凶　▲六白　事業も都合よく運び行き願望も成就すべし　▲七赤　我意を通さず萬事目上の人の言葉に從へば吉　▲八白　果斷して迷ふ事なくば成功の一日となる　▲九紫　心決せざる時は小事も手に餘る事となる日

講談

（173）　高橋掬太郎創作　布施八郎揮毫

姫を勵ます

忠太郎は千世姫が自分を便じてくれることを喜び乍ら神部淸左エ門を討つたのは決して自分でないと思ふ事を物語つた

『神部殿がた果てなされた翌夜さへここでござります左様すればその夜は姫君　御存じの通り拙者は石室の中に居りました一歩も立出でませぬ』

『ほんに——』

と千世姫はうなづいて

『御身は其の夜は何處へも行かれませなんだ石室に居られた御身が城下で人を斬る筈がありませぬこりや神部殿がた討れなされたと云ふは偽りでありませうか』

と少しでもよい方へ考へようとした

『神部殿がた果てなされたのは事實でござりまする既に葬式も相濟んだとの事でござりまする、たゞ拙者が討つたやうに申すのが聞ちがいで御座りまする』

『そんなら誰か御身の服裝を眞似た者の所業でありませうか恰度姿を盗み出した時のように』

『左様でござりまする誰か拙者の眞似など致した奴の所業かともしれませぬ、誰も見てゐた者がないので果して何奴の所業かは判りませんが神部殿は拙者の服裝を眞似た者には油斷されたかもしれませぬ』

と淸左エ門は其の夜昌康の命を受け自分を探す爲に松並木へ出かけた事を語り自分とは前夜立會つて味方と云ふ事は充分知つて居るから自分の姿を眞似た者が現れたとすれば味方と思ひ油斷して會ふたかも知れぬと述べ

『しかし神部殿は名うての勇士でござります故餘程腕前のすぐれた者でなうては敵はぬと存じまするが、何奴の所業か何れ昌康君や早間重太夫が計りし事と存じますが憎つき奴でござりまする』

と忠太郎は怨の涙をはら〳〵とひざに落して齒を喰ひしばり城下の方とおぼしき空間をぐつと睨んだ！

千世姫も同じ思ひ頼みに思ふ淸左エ門の果敢ない最期を悼み悲しむと共に昌康や重太夫に對する怨焔のやう燃えて血のやうな涙を袖を絞つた

『如何なる勇士も豪傑も欺すに手なしとやらまた闇の礫は避けがたき世のたとへ神部殿のように豪勇世に鳴れど天下に智者と謳はれた人も欺し討にされたかと思ふと妾は口惜う思ひまする』

『左様で御ざりまする御主君、成昌公も其の通り天下に謳はれた智勇の兼備の名將でも惡人輩のたくらみにより谷間に落ちて今日迄お行方知れず無念とも口惜しとも申上ごやうもござりませぬ、しかし惡は必ず永久に榮るものではござりませぬ今に御覧あれ此の石川忠太郎昌義がきつと怨みを晴して目にかけまする、それを樂しみに暫くの間の御辛抱願ひまする』

忠太郎は鐵の如き決意を示して云つた

『たゝ頼しき其の御言葉期になる上は頼みに思ふは御身一人でありまする、何卒惡人輩を討ち滅して給るやうなた頼み致しまする』

姫も悲憤に身を打ちふるはせ乍ら云つたそしてしみ〴〵と思ふやうに

『妾も若し男と生れしならば御身と共に怨みの太刀・揮ふものを女と生れし身の果敢なさ口惜う思ひまする』

と歎いた

『いや——』と忠太郎は涙を拂つて微笑しながら

『御女性の御身でござるが故に今日迄御無事でござりました決して歎き遊ばすには及びませんまたたとへ御女性の御身でもその昔の巴板額の如き女大夫もござりまする拙者は明日より姫君に武藝の御教授を仕りませう』と力強く勵まして云つた

廣告

御需めの方は
平白銀町
吉田新聞店へ
電話四十八

松茸大暴落!!!
好季節
牛なべ
鳥なべ
松茸の御とほし
拾數年の經驗より得た『石川のなべ』は又格別の風味を加へました、殊に松茸の出盛りは牛肉の最も味附き時です、御家族御同伴の晝、夕食大小御宴會並に紅葉狩りの御歸りには是非「なべ」を圍んで御談笑の程御待ち申します。
牛鳥肉御料理　平町田町　石川亭　電四三番

和洋御菓子
「開店御披露!!」
十月二十二日より二十八日迄の向ふ七日間
開店紀念として御來店の御客様に限り左の奉仕………
小賣に限り
御買上金高の二割 商品切手 提供
平町二丁目（百七銀行前）電話近日開通
永野キャンデーストアー

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋　㊅　釜屋商店
諸橋久太郎
電話九一番 一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊅の生命なり

青麻山
中風靈藥
定價一週分九〇　二週分一、七〇　三週分二、五〇
動脈硬化症、腦溢血、半身不隨、言語難澁、其の他中風より起れる諸症に偉効を奏す
……是非御試用を勸む……
代理店　平町五丁目角　山野邊藥局

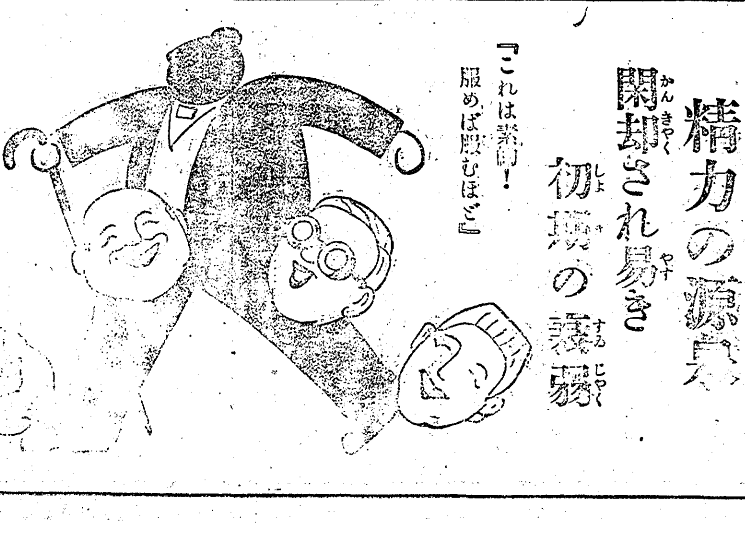
鐵筋コンクリート
鐵骨組立
和洋建築
文化式建築
設計監督
土木、建築、請負業
合資會社 丸三森川組
社長 大森鎭平
東京日本橋南茅場町二〇 電話茅場町66四五二番

深キ經驗ト正シキ學理ヲ基トシテ
最新ノ設備ト
優秀ナル技巧ニ依リ
多産廉賣
益々聲價漲ル
萬年瓦
仙臺高等工業學校試驗證明
鐵道省 福島縣廳 栃木縣廳 青森縣廳 指定品
福島縣四倉町
萬年瓦工業株式會社
電話三八番

釀造元
清世界
銘酒
各炭鑛御用達
石城小名濱町
清水屋
小野晋平
電話六番

診察無料
如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい
院長博士 敬白
大谷時計病院
電話一九番

生殖機能は
健康の中心
精力の源泉
閑却され易き
初期の衰弱
『これは素的！
服めば服むほど』



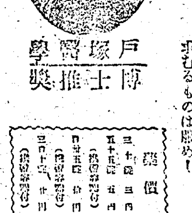
トツカピン

生殖機能が——衰弱すれば全身疲弱して、萎んた揚句、遂には年中の幸福をも喪失する、遺精や夢精、早漏の微候に油斷せず、直ちに召せ、トツカピンを

神經衰弱が——原因で罪を犯し、精神に異状を來し、落伍者となり、甚だしきは自殺するものさえある！何といふ恐しい現象であらう。默藥に迷はず斯界の權威トツカピンを服んで直ちに復活を…

不眠症——一晩の不眠がどれ程身心を疲はすであらうか…二日三日と不眠が續けば身體は綿のように疲れる、何んとかして快い睡眠を求めたいといふ人にトツカピンは最も向きです

精力增進——「精力増進」は日一日深刻となつて行く現代に「力」がなくて何が出來よう…百萬圓の金よりも貴きは健康精力である　若さの如く溌剌たる精力を求むるものは服め！



戸塚醫學博士推奨

定價 三十錠 三円　五十五錠 五円（郵便料付）　百廿五錠 拾円（郵便料付）　三百十錠 廿円（郵便料付）

發賣元 丁子堂藥房
東京市銀座新肴町八番地　振替口座東京七二二一番
大阪市西區立賣堀北通二ノ九　振替口座大阪百六番

◎全國到る處の藥店にあり

一里を十七分で歩く　今猿飛の秋光君來平
空中水上も容易に濶歩　明春世界的檜舞臺へ

昨二十七日午後四時頃ユニホーム姿の一青年が驅けるでもなく急ぎ足で平町本通を歩いて來た通行の人々は奇異の目で見て居たがこの人こそ世界的徒歩旅行選手である京都立命館大學出身法學士秋光重之君(二七)であつた。實に一日平均二十四五里、一里を十七分の標準で歩くといふ、實にすばらしい足の持主である、最初下の關旭川間の徒歩旅行に美事成功して以來朝鮮、滿州、支那、フイリッピン、印度、シベリア北歐と世界足跡の到らざる所なく今度は東北一週徒歩旅行を企て白石、仙臺を經て常磐線を廻り昨二十七原の町より平まで歩いて來た上今二十八日午後二時磯原へ向け出發し水戸を經て歸京するのであるが、今二十八日午前十時より平商業學校武道場で世界一週の面白い有益な講演があり終つて同校庭にしと降る雨をついて實演をしたが秋光君は日焼けた面に元氣で語る『私は秋光式歩行術と名づけ更に第二次計劃としては水上歩行、空中歩行を研究する積りです

水上なら ば既に二階位は歩行し得ます、何しろ一里を十七分以內で歩行しなければ世界の舞臺に立てません明年三月北米に於て開催されるロスアンゼルスニユーヨーク間三千哩の徒歩旅行に參加し世界の選手權を獲る積りです』云々語つた、因に同君は今猿飛の異名がある

內務省全力を擧げ　商港豫算復活
清水土木局長が急遽　材料蒐集に來濱

小名濱商港問題の經過については本紙屢報の如く大藏省議では一度同補助を明年度豫算より削除したけれども內務省では飽迄復活承認せしむべく

諸材料の 蒐集中であるその爲め內務省土木局長內務省書記官清水良策氏は議に承認された秋田縣の土崎港も削除された小名濱商港を實地調査して比較せしむべく一面に於ては東京以北唯一の商港である鹽釜港の規模と小名濱港の規模とを比較調査の爲め目下來北中にあるが來る卅日午後七時湯本驛着にて仙臺から來縣し同夜は湯本温泉に一泊三十一日小名濱港を實地視察の上同夜歸京する豫定であるので本縣では此の機會に小名濱修築の緊急なることを力説して貰ふ爲め中川土木課長、山口港灣主任技師、船越土木主事は案內の爲め出張する

讀者と記者
教育家に望む
一讀者

現代教育界の惡化といふ事を痛切に感じさせられました。現今小學校教員は何を目的に、何をモツトーとして教鞭を取つて居るのか?といふ事に疑念が湧きます、我帝國の第二の國民を養成する小學校教育、これを眞面目にそしてもつと愛のある教育をして欲いと思ひます、耳にひびく學校內の噂はとても聞くにたへない事が多いので御座います

ある宴會の末頭泥醉した一教師が階上から失敬して道行く人の頭上に時ならぬ雨水をかけたといふ事をやり、世間ではあれでも教育家かと恐れをなしてゐる例もあります、又男教員と女學生(町に多い)との情事、女教員と男教員の醜態等は平氣で行はれてゐます、戀は罪惡ではない、だがもつと眞面目にしてほしい、戀は遊戯ではない筈です。

人間は人間としての道德の外に、各自天職に對する道をふまねばならない筈です。教育家は教育家としての道、商人は商人としての道、國家の干城たる軍人は軍人の道を、お互はそれぐ神からふむべき道をきめられてある筈です。

私達の級にも師範入學希望がたくさん居ります。又學情のため檢定を受ける者等、皆一樣に慈愛深い校長及び諸先生の下に信仰的な教育によつてはぐくまれて居ります。現在男女共學です。でも皆愉快に樂く、むつまじく眞面目に勉强してゐます。入學以來男女間の事で不愉快だつた日は一日もございません。

どうぞ師範[illegible]諸兄姉よ、自ら責任を自覺されて自重して下さいませ。やがて送らるゝ後輩のためによき指導者となつて共々教育界のために御奮闘下さい。

記者——教育家としては當然殊に謹むべきものであるべきは言ふまでもありませんが教育家なるが故に殊更神の如くなれと望むは少々無理である樣に思はれます、要は教育家それ自身良心的自覺に保つべきものであると存じます

養女の看板で吊り　實は詐欺結婚
ヤツと虎口を逃れて　助かる十四の娘

石城郡錦村大字大倉字御寶殿十九番地正木某二女ヨシ(假名一四)は同村小學校の高等二年生で成績よく常に上級學校に入學を望んでゐたが、家計が餘りゆだかでない爲め同村大字長子小野勢喜に子供のない良家に

養女に世 話するからと話しかけられ、養家先で女學校に通學させる然る後適當の婿を貰ふ約束で、兩親も同意し養子緣組の成立を見た所、其後本人ヨシが附近の噂を聞くに養女とは眞赤な嘘で實は隣村川部村王城炭坑運炭夫齋藤某(二二)と云ふ竊に二回も妻帶した事のある男への嫁入りと知り、光方から迭つて來た祝着に驚いて自身媒酌人の下に行き約束の異るをせめ、破約を申出でたが媒酌人小野は慘酷にも始めて本心を明し婚禮も二十八日と決定してあるのだから嫌なら直ぐ歸つて來るとも一度は行けと承知せぬ爲め、死んでもそんな男の處には行かぬと云ひ切つて歸宅した所、金で買收された兩親は可愛想にも嫁にゆけと勸めるので、ヨシは乙女心に途方にくれ學校も休んで三日三晩

泣き暮し たのを同小學校長荒井一二氏がこれを聞いて不憫に思ひ、兩者の仲に入つて婚約を破談させ圓滿解決を見た

危險極まる　玩具商取締
平署で嚴重に

平警察署では管內町村に於ける小兒相手の物品販賣店にて玩具共通の飲食物等を販賣してゐるが其中には隨分危險の伴ふと共に衞生に有害なものがあるので徹底的之れが取締を行ふ筈であるが親として斯くの如き非衞生的にて危險を伴ふ如きものに對し相當注意を拂つて貰ひたいと

平町の賭博
一網七名捕はる

平町堂の前最上義太郎方二階にて二十六日午後九時三十分ころ左記七名が車座となり現金をかけ花合せ賭博開張中平署猪狩刑事外署員數名が踏み込み一網打盡に檢擧し本署に引致取調中であると

京染外交員高橋蔵雄(三〇)長南信壽(三九)長谷川一郎(三七)澁澤謙次(二八)太田[illegible]一(三六)宇佐見信次(三五)[illegible]勝友吉(三〇)

あつた

農家は米價安に　平の商店閑散
祟られ通しの不況に　郡下農村の昨今

石城郡下各農村の昨今は稻の刈入れに着手し何れも大繁忙を極めてゐる、農家が最も困難するのは秋の收納時に於ける雨天であるが昨今恰も梅雨の樣な雨が連日つゞき全く好晴が少ないので收納作業上の不便は勿論籾の乾燥上非常の手違ひを來たし何れも困り拔いてゐる、而して籾の乾燥の良不良は精米に於て著しき影響あり均しく惱むでゐるが之れと同時に今年は近年稀な米價安の爲め農家は借り入れた肥料代その他舊債償還に甚だしき苦心をなしてゐる模樣である、本郡地方の新米は漸く市場に見ゑて來たが相場は一駄玄米八斗が二十一二圓見當で尙ほ下向きの傾向にあり夏秋蠶繭の安値より祟られて來た農家であるは一樣に前途を悲感してゐる模樣で之れが爲め中町の各商店も漸く淋しさが加はり、今のところ閑散を極めてゐる

勿來に現はる　僞獸醫
馬主は御用心

石城郡勿來町大字關田大橋彥治氏の飼馬が病んでこまつてゐる處へ茨城縣多賀郡關本村關本前田留次(四七)なる者が來て病馬を診察し如何にも獸醫らしく振舞ひ數囘に亘つて治療し、數十圓をせしめたが時日が經つても癒らないので飼ひ主が不審を抱いてゐるのを其筋で探知し取調べたところ何等免狀を持たない僞物と判明しなほ餘罪ある見込で取調中である

本物の外交員顏で　保險金を詐欺
寢込みを踏み込まれ　平署嚴重取調中

平町字鷹匠町一五滿水政時(四〇)は昨年夏頃から東京富士生命保險會社に月給五十圓で書記に雇はれてゐたが事故あつて今春四月頃解雇され以來各所を徘徊してゐたが政時は其の後も同會社に雇はれてゐる體に裝ひ去る四月中內郷村大字宮字宮澤磐城炭礦運搬夫曲山福信から五百圓の生命保險契約をとり第一回第二回の拂込料二十圓五十錢を及同村字前田星野敬次郎から千圓の契約による第一回拂込分二十六圓五十五錢を詐取した事平署[illegible]探知する所となり今廿八日午前六時頃自宅に潛伏中平署青田部長以下に逮捕されたが重厚は第一火災保險會社の代理店を爲したもので同會社からも集金數百圓を詐取してゐたらしく目上嚴重な取調を受けてゐる

土木委員會
けふ町役場に開く

平町土木委員會は今二十八日午後一時より平町會議室に開かれたが橋梁下水工事道路士砂敷き等を協議し併せて南町裏の水道敷設工事に附いて具体的の打合せが[illegible]

男に捨てられ　漂浪の酌婦
憐れな一生

石城郡勿來町關田赤津末吉方酌婦福島市生れ山本トキ(三〇)は繼母の虐待に堪え兼ねて家出し、以來諸所を流轉してゐたが、この夏頃繼母が病氣だからとて金策を命ぜられ止むなく九月十一日に前記赤津方に前借百五十圓で酌婦に住み込んだが、トキは以前から柴田政雄といふ東部電氣株式會社平發電所職工を情夫に持つてゐたので酌婦勤めをきらひ住み込んで僅八日目の同月十九日前借金を踏倒して逃走した抱え主は驚いて搜査をつゞけてゐたが此程同郡內鄉村に潛伏してゐたのを見つけて連れ戻しトキは植田署の說諭をうけたが、本人の生立には數奇を極めた可憐な事情が存するらしい、なほ同女は男にも捨てられ土地にも住憎く再びさすらひの旅をつゞける事となつた

ドッチボール　大會
國民支局主催

國民新聞平支局と平第一小學校主催の縣下ドッチボール大會は來る三十日午前九時半から平第一校庭で開かれるが縣下各地よりの參加小學校は二十五校に達し本縣下に於ける最初の競技大會であるため各れも榮えある第一回の優勝校たらんと必死の猛練習を加へてゐるから當日は非常な白熱戰を演んずるものと豫想されてゐる

雉や山鳥も多く　秋の穫物は譯山
平、四倉、植田管內で　狩獵者二百餘名

石城郡下本年度に於ける二十五日までに狩獵免狀の下附を願出たものは平署管內百三十六名植田署管內四十四名、四倉署管內三十名で合計二百十名で前年より非常に少いが雉、やまどりの解禁は十一月一日から兎その他の獸類は十二月一日から解禁になるわけだからその頃になつて相當增加するだらうと今年は鳥獸類蕃殖が非常によくこれは昨年は諒闇の關係で一般に出獵が少かつた爲めであるとこの他渡り鳥もまた多からうと豫想されてゐるが解禁後以來の成績につき某狩獵者の語る所によれば今年は例年より寒さがおそくまた各河川も未だ水が多い爲め獲物は割合に少いが十一月頃になつたら相當獲物があるだらうと樂觀してゐる

名簿作成に　町役場努力
總選擧と平町

平町役場では愈本月末日迄に明年行はるべき衆議院議員の選擧名簿作成を完了せしむる方針にて豫て其準備中であつたが未だ全部の申告を見ず事務進行に就き少からぬ支障を來してゐるので吏員を派して督勵してゐるが申告書提出のものは此際至急申告されたいと

郡南聯合運動會
舊菊多六小學校の　熱狂せる應援團

石城郡舊菊多方部六校聯合体操演習會は、秋空高く澄み渡れる二十五日午前八時から錦小學校庭に開催された、尋六及び高一の兩學年各十分づゝ体操を演習し午後は當日の呼び物となる各[illegible]チリレーレースは應援團の熱狂裡に行はれたがその結果左の如し

◇尋男　第一着錦校▲第二着川部校▲三着山田校
◇尋女　第一着植田校▲第二着川部校▲三着勿來尋高校
◇高男　第一着勿來[illegible]二着川部校▲第三着植田校
◇高女　第一着山田校▲第二着植田校▲第三着勿來校

最後に聯合体操を爲し午後二時半終了したが選手全部に對し錦村長金成通氏からノート一冊づゝを贈つた

平陽卒業式
卒業生三十四名

平町平陽實科女學校では二十八日午前十時から後期三十四名の卒業證書授與式を擧行する筈であるが卒業生氏名は左の通りである

橋本律　箱根きよ　新妻美都　新妻きい　堀川君長春枝　大和田りこ　大川がち　太田原常　大津さつ　高萩美惠　添田たけよ　薗部きよ　中村かねよ　永山いせの　永山光代　內海可津惠　魚住きしね　野口志眞　小野まつえ　草野梅　松崎とみ　古川千代　小林すみ　小林千代　佐藤きく　佐藤幸　水野とみ　三谷八千代　首藤みき　柴野たけ　鈴木ふぢい　鈴木とみ　鈴木とり

稻の立毛品評
平町

七ケ村稻立毛品評會は二十六日より二十八日まで行つたが成績は三十日神谷農事分場で發表の筈

昨眞夜中に　中山の火事
損害は二千圓

昨廿七日午後十一時頃突如飯野村大字中山字緩谷一五農鈴木丑藏(三七)方裏手風呂場から發火折柄の强風で火は忽ち同家外二棟非住家二棟を燒失猶ほも猛烈に火勢をあげて隣接せる各戶に炎も移らんとしたが驅付けた近村各消防組の努力に依り廿八日午前一時辛じて鎭火した損害約二千圓原因は風呂場に置忘れた提灯からで目下平署に於いて取調中である

在平記者觀楓
在平

日刊新聞記者有志一行十數名は來る三十日午前五時平發川前驛附近に於て觀楓會を開く筈である

拜啓此度近火ノ際ハ早速御馳付被下御陰ヲ以而類燒ヲ免カレ大幸ニ至ラズ誠ニ難有奉存候殊ニ其際ハ小生出張不在中ノ事トテ一方ナラザル御拖介ニ相成申譯モ無之候段何卒不要御思召被下度候實ハ一々拜趨御厚禮申述ベキノ處乍失禮以紙上御禮申上候　敬具

平町字揺槌小路　辯護士　酒井喜代正　電話七三二番

電話開通御披露
染物の御用は新設電話七六八番へ
平町七丁目　阿波屋染物店

平町田町　高久病院　電話五〇三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
內科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

寒さに是非……
毛糸各種　新荷着
手編用に防寒用にイヨ／＼需用が激增してまゐりました、是非御用命を
平町三町目　三井呉服店　電話三十八番

登錄商標
元造釀
福島縣平町　山崎合名會社
電話　營業部一〇番　釀造工場二七番
振替東京一九七五五番
東京支店　上野車坂町四三
電話下谷五七二二番
振替東京六八三二番